

過去の諸調査問題の活用ガイドライン

令和元年9月

岩手県教育委員会事務局学校教育課

1 諸調査の趣旨・目的

(1) 全国学力・学習状況調査

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 上記のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 県学習定着度状況調査

- ア 各小・中・義務教育学校において児童生徒一人ひとりの学習の定着状況を把握し、その分析結果を生かした授業改善をより一層推進し、一人ひとりを伸ばす指導の充実を図る。
- イ 全県的な規模で学習の定着状況を把握するとともに、明らかになった学習指導上の問題点を、各種研修会や学校訪問指導等の様々な教育施策に反映させることにより、本県すべての教員の指導力向上に資する。

2 諸調査の趣旨・目的を踏まえた活用についての判断基準

過去の調査問題の活用に当たっては、例えば、以下の基準を満たすなど、学校の教育活動の充実につながっているものは適切であるものと判断します。

- (1) 調査の結果として明らかになった個々の児童生徒、学級、学校などの課題の改善、定着を図るために、日頃の授業や家庭学習または放課後や長期休業中に行う補習授業などの指導計画に位置付けるなどして活用している。
- (2) 日頃の授業等で児童生徒の学習の状況等に適切に対応した教材の一つとして活用している。

3 諸調査の趣旨・目的を踏まえた活用例

(1) 授業

- ア 1単位時間の学習指導において、課題提示や定着を図る活動の際の教材として取り扱う。
- イ 児童生徒の探究的な活動を行う際に、その活動の目的・趣旨に合った教材として取り扱う。

(2) 評価場面

調査問題の出題の趣旨を踏まえて、調査問題の活用を単元計画に位置付け、授業の評価問題や単元テスト、定期テストなどに取り入れる。

(3) 家庭学習

- ア 調査問題の出題の趣旨を踏まえて、授業と連動した家庭学習の課題(宿題)として取り入れる。
 - イ 学期や学年の総仕上げとして、定着を図るための教材の一つとして取り入れる。
- ※ いずれも、取り入れるだけで終わらせず、児童生徒や学校の実態に合わせて取り上げ方を工夫したり、適切な補足解説や事後のフォローをしたりするなど、つまずきに寄り添うことが重要である。

4 不適切かつ効果のない活用例

調査実施前に授業時間や授業外の時間を使って集中的に過去の調査問題を練習させるなど、数値データの上昇のみを目的にしているととられかねないような取扱い。